

石・狩・湾・新・港・地・域

SAPPORT NEWS

●産業拠点● SYNERGY = SAPPORO × PORT × INDUSTRY

Vol.85

石狩開発株式会社
編集発行／営業推進部
北海道石狩市新港西 1-721-11
TEL 0133(72)2300 FAX 0133(72)4055



▲ホームページ



▲YouTube チャンネル

風力発電

風況の優位性が後押しし

石狩湾新港地域に風力発電用の風車が多いのは、風の強さや方向の安定性といった「風況」に恵まれている場所であることがその理由の一つです。

現在、陸上に23基（出力合計約6万6000キロワット）、洋上に14基（出力合計約11万2000キロワット）合計37基（出力合計約17万8000キロワット）の風車が建っており、複数の事業者により運用されています。

風が強く、さまざまな制約の少ない海の上、すなわち洋上は今後期待される設置場所です。当地域には、国内で2番目に商業運転を開始した洋上風力発電所である「回クリンパワーストーン」（本社・東京都港区）が運用する「石狩湾新港洋上風力発電所」があります。

遠浅の海を活かし基礎を海底に固定する着床式にて設置された風車は、ブレード（羽）長約80メートル、タワーの高さ約90メートル、出力8000キロワットの大型風車14基で、発電所としての総出力11万2000キロワットという大きな規模で2024年1月から商業運転を開始しています。

太陽光発電

売電型と自家消費型が共存

当地域内には、再生可能エネルギーの固定価格買取制度いわゆるFIT制度などを活用した売電型の太陽光発電所が合計9000キロワットを超える規模で稼働しているほか、データセンターなどが自ら使う電力を賄うことを目的に敷地内外に設置する自家消費型の太陽光発電所も増えています。

売電を目的とした

当地域内の商用太陽光発電所の中には、石狩新港機械金属工業協同組合が設立したIMCソーラー（本社・石狩市）代表取締役阿部仁一氏は、所有地の有効活用と安定的な財源確保などの観点から、太陽光発電所を設置・運営しています。



▲太陽光発電所（写真提供：IMCソーラー様）

平成27年11月に運転を開始したこの発電所は、定格出力1960キロワットで、年間発電量は約181万kWh、一般家庭消費電力約5000世帯分となります。

太陽光パネルは1万1520枚で、地上から200センチの高さに設置することにより、道が定める石狩市の垂直積雪量140センチ以上にも対応することを可能とし、さらに太陽電池の角度を40度に設置し、パネル面への積雪を防いでいます。

石狩湾新港地域から生まれる再生可能エネルギー

「石狩湾新港地域」と聞いて「大きな白い風車」を思い浮かべる方は少なくないのではないのでしょうか。当地域は風力発電だけでなく、さまざまな再生可能エネルギーの道内最大規模の集積地になっています。

発電した電力はFIT制度を活用し、全量を北海道電力（株）へ売電しており、本年6月までの9年7か月で累計売上8億円を達成しています。

バイオマス発電

木質資源を活かした

カーボンニュートラルの実現

バイオマス発電の燃料の一つである間伐材や廃材などの木質バイオマスは、燃焼時に二酸化炭素を排出しますが、植物としての成長過程で二酸化炭素を吸収しており、排出と吸収による二酸化炭素はプラスマイナス・ゼロ、いわゆる「カーボンニュートラル」となります。

当地域のバイオマス発電所は、完成済、建設中、建設準備中の3施設があり、いずれも木質バイオマスを燃料としており、その出力は合計で16万キロワット（計画を含む）に達します。

また、燃料にPKS（パーム油を抽出した後のヤシの実の殻）や外国産の木質バイオマスを使用する場合もあり、継続的な輸入が石狩湾新港の利用促進につながります。



▲石狩地域バイオマス発電所（建設中）

LNG火力発電

高効率・低炭素の次世代型発電拠点

北海道電力（株）（本社・札幌市）代表取締役齋藤晋一氏が当地域に設置する「石狩湾新港発電所」は、「ガスタービン・コンバインドサイクル発電」という、ガスタービンと蒸気タービンを組み合わせた発電効率の高い方式を採用している発電所です。

燃料に使用しているLNG（液化天然ガス）は、排出される二酸化炭素の量が石炭や石油の場合に比べて少ないなどの優れた環境特性があり、また発電を行う設備は発電出力の調整速度が速いという運用特性を持っているため、気象条件等により発電量が変動する再生可能エネルギーの導入拡大を支える重要な役割を担っています。

2019年2月に営業運転を開始した1号機の出力は約57万キロワットであり、当初計画より4年前倒しして2030年度に運転開始予定の2号機、同じく4年前倒しして2033年度に運転開始予定の3号機と合わせると合計約170万キロワットとなり、データセン



▲北海道電力石狩湾新港発電所（写真提供：北海道電力様）

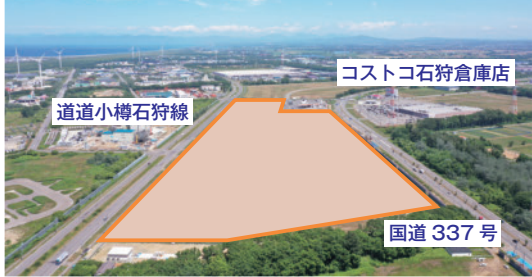
新たな分譲用地の造成が進んでいます

石狩開発（株）では、企業の皆様の事業用地のニーズにお応えするため、石狩湾新港地域内の利便性の高い二つのエリアにおいて現在、分譲用地の新規造成を進めています。

花畔第二4工区

石狩市新港南2丁目位置する「花畔第二4工区」は、新千歳空港から長沼町、南幌町、江別市、当別町、札幌市を經由して当地域を結ぶ高規格道路「道央圏連絡道路（国道337号線）」と、これにほぼ並行して当地域内を貫く「道道小樽石狩線」に挟まれた東西方向に約300メートル、南北方向に約500メートルの約17・3分の広大な区画です。

石狩市の都市計画において再生可能エネルギーを活用したIT企業やデータセンター等の集積を図る「情報技術関連特別業務地区」に指定されているこの区画は、造成工事もほぼ完了しており早ければ令和7年度中にも分譲が開始される予定となっています。



▲造成中の花畔第二4工区

銭函地区第11工区、第14工区

もう一つの期待のエリアは、石狩湾新港地域の小樽市域側（新川通（道道125号前田新川線）と道央圏連絡道路（国道337号線）の交差点付近の小樽市銭函4丁目にある「銭函地区第11工区」（約14・4分）と「銭函地区第14工区」（約9・7分）です。これら二つの区画のセーリングポイントとは、何と言っても札幌市中心部から「新川通」1本でアクセス可能な抜群の立地にあり、物流関係をはじめ様々な業種の皆様から熱視線が注がれています。

銭函地区のこの二つの区画は、令和8年度以降の分譲開始が予定されています。石狩開発（株）では、引き続き企業の皆様に最適なビジネス環境を提供できるよう用地の造成を進め、その進捗状況はこのサポートニュースやホームページでお知らせしていきます。

お問合せ先
石狩開発（株）営業推進部
TEL 0133-7212300



▲造成中の銭函第11工区、14工区

北海道が産業振興条例を改正

本年度より企業立地に係る助成措置を大幅拡充

北海道は、次世代半導体の製造拠点や大型のデータセンターの立地、北海道・札幌GX金融・資産運用特区の指定等の企業立地を取り巻く環境の変化を踏まえ、企業立地のさらなる促進を図るため、本来の見直し時期を前倒しし、本年4月1日、北海道産業振興条例に基づき助成措置を見直し、大幅に拡充しました。

主な見直し内容は、本年度から導入されたGX推進のための税制優遇と整合をとり、①洋上風力関連産業、②SAF等の合成燃料、③水素、④蓄電池、⑤次世代半導体、⑥データセンター、⑦海底直流送電、⑧電気及び水素運搬船、⑨新エネルギーの8つのGXプロジェクト及び新エネルギーについて、現行で未対応の事業（⑦、⑧）を対象に追加するとともに、限度額の拡充等（③、⑤、⑥）を行いました。

道では、この企業立地助成制度を活用し、道内各地域における特色ある資源や立地優位性を活かした企業立地を一層促進したいとしています。

この条例に基づく助成措置の詳細は、北海道経済部のホームページをご覧ください。



【改正のおもなポイント】

データセンター

- ・補助限度額を15億円に拡充（現状5億円）
- ・消費電力の60%以上を再生可能エネルギーで賄うデータセンターが対象

半導体関連産業

- ・補助限度額を15億円に拡充（現状10億円）
- ・成長産業分野に「半導体関連産業」を創設
- ・半導体関連の製造に附随して行う回路設計を「半導体関連産業」の対象に追加

新社屋・工場を操業開始！

(株)北海大和

北海道からおいしさと笑顔を

HOKKAI YAMATO



▲新社屋・工場



▲直売所の様子

9月18日(月)金、最新の設備を備えた新工場は、衛生管理と効率化を徹底し、高品質な製品を安定して供給でき、北海道の事業拡大における重要な工場となります。

(株)北海大和(本社・小樽市代表取締役 堀田健一)は、小樽市銭函4丁目に新社屋・工場を新設し、これまでの札幌市東区の工場から移転、生産体制を大幅に強化し、2025年5月8日より操業を開始しました。

同社は「北海道からおいしさと笑顔」という理念のもと、国内外の需要先への安定供給と販売拡大を目指しており、新たな工場には、トラックヤードを3カ所設けるなど、物流面での効率化も考慮され、スムーズに出荷できる体制が構築されました。また、主に粉末スープ、ふりかけ、お茶漬け、レトルト食品などの加工食品の製造、特に北海道産の素材を柱とした商品展開に注力する同社は、今回の工場新設により、約2.5倍の製造設備の増強と能力アップを図るほか、併設した直売所では、通常価格よりお得に商品を購入できるようになり、9月18日(月)金、最新の設備を備えた新工場は、衛生管理と効率化を徹底し、高品質な製品を安定して供給でき、北海道の事業拡大における重要な工場となります。

「石狩工場スマートファクトリー・オープンLIVE」に参加してきました

(株)アイワード



石狩市新港西3丁目にて石狩工場を操業する(株)アイワード(本社・札幌市代表取締役 奥山 敏恵)は、同社の創業60周年を記念し、2025年4月10日に1日限りの「石狩工場スマートファクトリー・オープンLIVE」を開催しました。



▲スマートファクトリー見学会の様子 (写真提供: (株)アイワード)



▲特別展示会場の様子 (写真提供: (株)アイワード)

近で見学でき、参加者は、自動化された生産ラインや、リアルタイムで管理されるデータフローなどを見るのができました。また、同社が60年間で手掛けてきた数々の書籍や印刷物の特別展示も行われ、これまでの歴史と技術革新の歩みを深く知る機会となりました。

石狩市と札幌市中心部をつなぐ「花川通」(札幌市内に入ると追分通となる)と石狩湾新港地域の流通地帯の幹線道路である「流通通」を接続する「花川通延伸工事」が着々と進められており、令和7年内の開通が予定されています。

花川通 いよいよ開通!!



▲石狩市街地からみた工事現場 (2025.07 撮影)

これまで、札幌方面から石狩湾新港地域へ向かう幹線道路は限られ、大型トレーラーなどの物流車両が集中することで、特に冬季間の交通渋滞や安全性への懸念がありました。が、花川通と流通通が接続され、石狩湾新港地域への通勤・物流ルートが多様化・分散化することにより、交通の円滑化が図られ、石狩湾新港地域に出入りする物流の効率が大幅に改善されることが見込まれます。

◆ 企 業 紹 介 ◆

iDECOM
株式会社アイデコム

TEL 011-769-0401

(株) iDECOM (本社: 札幌市西区 代表取締役 近藤 賀慎) は、「微生物の力で、未来に残せる安全な土壌を作る」という理念を掲げ 2018 年 7 月に設立され、本年 8 月に石狩市新港東 2 丁目に微生物発酵飼料製造を内製化すべく、自社工場を新設し操業を開始しました。

微生物が持つ無限の可能性に着目した研究開発と実用化に力を入れる同社の事業は、北海道の厳しい冬の環境でも最大限の効果を発揮するよう、独自の研究を重ねて開発された飼料などの微生物資材の製造・販売が中心で、家畜の健康維持、生産性の向上などにより酪農家や農家の負担を大きく軽減しています。



▲竣工した石狩工場 (提供: (株) iDECOM)

TRANCY
日本トランスシティ株式会社

TEL 0133-74-4581

日本トランスシティ(株) (本社: 三重県四日市市、代表取締役: 安藤 仁) は、石狩市新港中央 2 丁目に新たな物流センターを建設しており、2026 年 5 月の竣工を予定しています。

建設中の施設は、敷地面積約 12,700 平方メートル、延床面積 3,960 平方メートル(約 1,200 坪) の高床式平屋建てで、花畔埠頭のコンテナヤードから車で約 1 分という立地条件にあるとともに、トラックの荷台とプラットフォームの間の高低差を調整するトラックレベラーを備え、コンテナ物流にも柔軟に対応可能となっています。

また、温度管理が可能な定温倉庫(約 900 坪)と常温倉庫(約 300 坪)を併設し、シートシャッターやドックシェルター式トラックバースも完備しているため、品質管理が求められる商品の保管ニーズにも対応しています。

同社では、「本物流センターの稼働により、石狩湾新港を利用した輸入貨物の取り扱いから、道内外からの荷受け、保管、出荷、配送まで、一貫した高品質な物流サービスの提供を実現いたします」と話しています。



▲完成予想図 (提供: 日本トランスシティ(株))

石狩湾新港地域の 環境整備活動のご紹介

「クリーン作戦」

石狩湾新港地域では、石狩湾新港企業団地連絡協議会(会長: 阿部 仁)が春・秋の年二回主催し、多くの立地企業、行政機関が連携して行う大規模な清掃活動「クリーン作戦」が行われています。この活動を通じて、道路脇や緑地に捨てられたゴミや不法投棄物を一斉に回収し、地域全体の環境美化意識の向上と良好な環境維持に努めています。



▲クリーン作戦清掃の様子

「花壇コンクール」

石狩新港機械金属工業協同組合(理事長: 美馬 剛)が主催する「花壇コンクール」は、組合加盟企業が設けた花壇の美しさやデザインを競い合うものです。各企業が趣向を凝らして花壇を整備することの取り組みは石狩市の「花いっぱい運動」による花苗提供を活用し、働く人々や来訪者の心を和ませるだけでなく、企業間の交流促進や創造性の発揮の場ともなっています。

市の「花いっぱい運動」による花苗提供の来年度分の申し込みは例年11月頃に受付される予定です(申込み募集案内は「広報いしかり」に加えてホームページにも掲載される予定)。

「グリーン作戦」と「花壇コンクール」は、無機質になりがちな工業団地の景観に潤いと彩りを加え、地域社会への貢献と持続可能な環境づくりに大きく寄与しています。



▲最優秀賞 (マルキン工業(株))



▲審査会の様子